

ミニバスで交通空白の解消をめざして

親和会エリアでも実証実験



今秋、乗合ミニバス・デマンド交通の実証実験（利用体験運行）が伊東市で計画されています。

伊東市の山間部では公共交通がほとんどなく、自家用車に頼るしかない状況に加えて、高齢による免許返納者が増えています。また市中を走る公共バスでは、運転手不足などから減便が続いていること、廃線の検討もなされている路線もあるとのこと。親和会会員からも、交通難民支援対策を求める声が常に寄せられています。一方で3年前に大室・伊豆高原エリアで実施されたデマンドタクシー実証実験では、利用者が非常に少なく、事業化されなかった経緯があります。

熱海市で行われた実証実験では、自宅送迎を前提に、高齢者のためのミニバス「まめっこ号」が成功を収めました。これを伊東市向けにカスタマイズしたうえで実証実験を行い、交通空白地域解消を目指す事業が始動します。利用者の参加を促すために自治会や行政区に出向き、説明会を頻繁に行うとともに地元住民のニーズを充分に吸い上げ、サービス改善が図られるようです（さすが民間主導！）熱海市での中心的な利用者は高齢女性だったことから、実証実験では女性の要望を反映させるとともに、年金生活者の交通費補填策も協議されます。熱海市での成功例を踏襲し、伊東市にマッチした利用体験運行が検討されます。

ミニバスは、規定路線を定時運行するコミュニティバスと、不定期(予約制)で自宅と既定の施設などの2拠点を結ぶデマンドタクシーの中間的な乗り物が想定されています。6人乗りのワゴン車を使用し、時刻表による定時運行ですが、ある程度決められた路線から自宅や停車場周辺の施設に、利用者の目的に応じてその都度柔軟に運行路線は変更されます。

実証実験は「乗り換え案内」で有名なジョルダン株式会社が実施し、路線バスや伊豆急との乗り継ぎを組込んだ連携サービスが計画されています。なお伊東市実証実験は、伊豆高原地区及び城ヶ崎地区のほか、かどの台地区と南伊東・川奈地区を加えた4つの交通空白地区を対象に検討されます。

8月1日、親和会「並木カフェ」にジョルダン株式会社顧問の石田氏、荒木氏お迎えし、親和会エリアの現状と要望をお伝えする機会が設けられました。熱海市では8割以上の利用が女性高齢者だった実績を踏まえ、親和会エリア在住の女性に意見交換会への参加をお願いしました。

夢プロジェクトチームや広報委員の女性7名のほか、4名の女性会員と4名の親和会理事が参加し、地域の実情を踏まえた要望を伝えました。次の意見交換会では、運行ルートなどや提供サービスなどの検討が予定されています。



デマンド交通実証実験についての意見交換会は次回「並木カフェ 9月5日(木)14:00」にて開催予定です。ご参加希望の会員は右下のQRコードから広報投稿ホームに進み、お申込ください。



八幡野タウンミーティング報告

7月23日開催の八幡野タウンミーティングに出席しました。小野市長、中村副市長、岸副市長、高橋教育長、西川企画部長の市幹部が出席、秘書広報室長の司会で始まりました。夜7時からの開催でしたが80名近くの住民が参加、コミセンの3階の会場は満杯でした。

本紙記者は先月号「そうだったのか伊東！」にあげた疑問点をあらかじめ文書にして提出、市長に回答を求めました。市長からは、「立地適正化計画」で使った人口予測（2040年までに南部地域人口は4割減）は住民年齢分布からの定性的推計であり次回からは動態（移住による増加）を加味したものを使って見直す。

また、都市計画税による整備事業が南部地域で行われていないという指摘に対しては中村副市長から「今後は納税者に公平な配分を目指す」との6月市議会答弁を確認するとの回答をいただきました。言ってみれば両者とも本紙記者の指摘を全面的に認める内容でした。

しかしながらここからが肝心、だからどうするというはっきりした言質がいただけた訳ではありません、不斷の対話と問題指摘が必要だと感じました。

またこの南部地域格差問題以外にも、市民病院を核とした地域クリニックとの連携医療体制が作れないか、静かな住環境を脅かす不心得な民泊利用者に対処する施策は取れないか、放課後の学童保護施設に入れない子どもたちの居場所を作れないか、などなど実に多くの問題と提案が提起されました。

タウンミーティングは、住民と市政をつなぐ大事な場、数字で裏付けされた問題提起、具体性をもった提案をぶつけて市政に反映させたいものです。



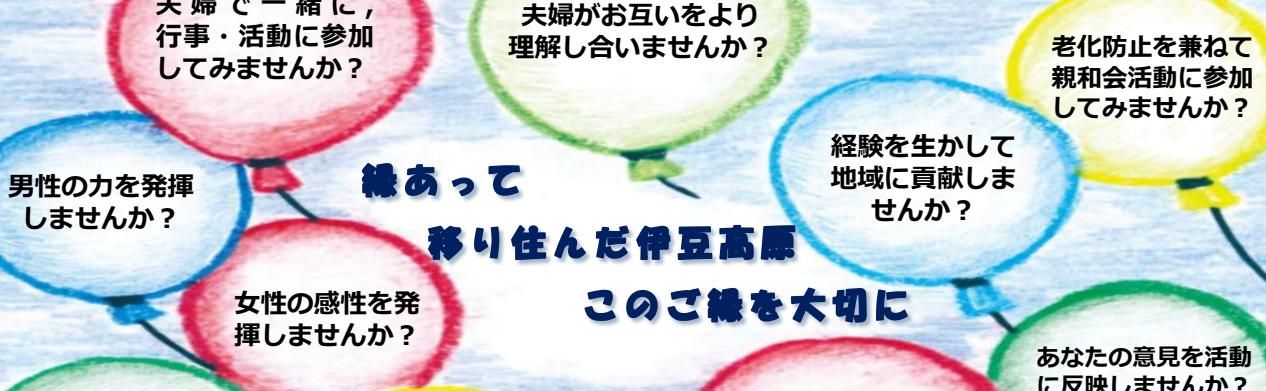
自治会はまがり角、親和会もまがり角!!

全国には、大小あわせて約30万の自治会・町内会があるそうです。今、多くの自治会では、加入率の低下、担い手の高齢化という課題を有する一方、広域災害に対する備え、独居世帯、高齢者の見守りなどの新たな役割が求められており、変革期にあるといえます。

親和会は、分譲地単位の自治会ですが、共用設備の維持管理を委託せずに自ら行い、共用設備には道路、街灯も含まれていることから、管理組合的な性格が強い自治会です。加えて、住民の交流活動、自主防災組織としての活動も行なっており、活動領域の広い自治会と言えます。そして、最大の特徴は、会員の2/3は定住していないということでしょうか。

親和会は、別荘地という性格上、定年後に移られた方が多く、高齢化は全国平均以上と思われます。原則として加入が義務つけられていますが、非定住者の方が多く、担い手の不足と高齢化も顕著です。また、昨年度の役員交代以降、女性の役員がゼロのままであります。

コロナ禍以降、定住者が増えているとはいえ、若年層が増えているわけではありません。また、定住者は、男性よりも女性の方が多いので、女性ならではの生活者目線での意見も必要です。親和会の活動を維持するためには、老若男女を問わず動ける人、全ての積極的な参画が求められているのではないでしょうか。小さなことからでも構いません、皆さんのご協力をお願いします。



犬と絵と自彌術、夫は東京に通勤し休日は畑仕事

第3地区 鈴木 妙 さん

伊豆高原に移住して六年になります。海にも山にも近く、温暖な気候に惹かれて、埼玉県から越してきました。

生活利便の良さや東京圏との近さも魅力でした。越してきて柴犬を飼い、犬との朝晩の散歩が楽しみでした。散歩では、この地域の豊かな自然を満喫できました。水平線に夜明け前の薄明が広がり、少しずつ濃いオレンジ色に、やがて真つ赤な太陽が姿を見せる光景は感動的でした。多くの犬と出会い、知り合いができました。

移住してから絵画教室にも通い出しました。この地域の自然と、複雑微妙な心のありようを持つ人物画に惹かれています。

私の今ひとつ生き甲斐になつていてるのが健康体操・自彌術の普及です。この体操は百十八年の歴史をもつた健康体操で、日本人（中井房五郎）によつて治療術から考案されました。



私の伊豆高原暮らし



器具は使わず31の動作で、自分の体を自分で手当している万病克服を目指した日本最初の健康体操です。八幡野コミセンで毎週水曜日に教室をやっています。

れば、と思っています。



ある日の散歩
画 鈴木 妙

「私は絶対に大丈夫。駐車場での事故はボケ老人の話！」

でも、誰にでも起こる運転時の心理は・・・

- ①反対方向に自動車が動き出したことによるパニック！
- ②反射的に間違って踏んだアクセルをさらに踏込む
- ③急加速で車のコントロールを失い、我をも失う!!!
- ④「ブレーキを踏んだのに加速した」と弁解・・・？

わたしの「油断と過信」；

先日、私はクリエイトの駐車場で、鳴り出したスマートの着信音に気を取られながら、バックしようとアクセルを軽く踏んだところ、車は前進し前輪が車止めにグイッ。不注意にもシフトレバーは『D』に入っていたままでした。もしもアクセルを強く踏んでいたとしたら、自動ブレーキがかかり停止していたのか、それとも車止めを乗り越えてクリエイトに突っ込んでいたのか・・・。

油断と過信が大惨事に



車にはうっかりミスを抑止する様々な補助装置がついていますが、シフトレバーのポジションまでは責任を持ってくれません。単純な確認不足が招いた危機でした。

「今まで無事故だった」「私は慎重派」と根拠のない自信のなかに、平穏な今日が一瞬で崩れ、穏やかな人生が暗転するリスクが潜んでいました。

親和会主催フリマ

断捨離一引継ぎ 能登半島地震災害支援募金フリマ

親和会初の試みの募金フリマが7月20日(土)と21日(日)に池生涯学習センター駐車場で開催されました。出店は土曜日7店、日曜日11店を数え、来場者はそれぞれ35人と60人でほぼ100名でした。



集められた募金の総額は52,541円で早速8月1日付で日本赤十字社宛に銀行送金されています。この浄財は出店者と来場者の皆様から頂いた協力の賜物で、厚く感謝を申し上げます。

出店者のライフスタイルを反映した品々は、募金活動であるためか破格の安値が散見されたのです。近く転出のご夫婦からはチェーンソウを含む品々が100円均一で出品されました。「売り手」となる経験も楽しまれたことでしょう。

会場設営と撤収には多くの協力者の力添えがあり、前日夕に開始された作業は順調に進み、お陰様で駐車場をフリマの会場へと変貌させることができました。

フリマは親和会会員間および地元住民との自然な交流の場としての役割も開催の目的でした。池の高橋区長からはLINEを通して瞬時に住民に広く伝えて頂き、多くの来場に繋がりました。

伊豆新聞とケーブルTV局CVAデジタル12chの取材と報道も盛会の鍵がありました。



親和会歩こう会 参加者募集中

「ヒガンバナ咲く池の郷へ赤牛伝説を訪ねて」

9月30日(月) 10時～14時 ※雨天中止
生涯学習センター池会館駐車場 10時集合(厳守)

案内 丹羽忠昭 (元伊東自然歴史案内人会会員)
問合先 鈴木恵子 (090-9808-5227)

環境ボランティア会 “会員大募集中”

9月25日(木) 9時40分 親和会事務所 集合
10時 城ヶ崎海岸駅 集合

城ヶ崎海岸駅～桜並木終点までゴミ拾いや草取り。
フジバカマの挿し木作業。

参加希望の方は、親和会事務所(0557-53-1122)まで



9月17日(火) 午前の部 9時半～
午後の部 13時～

10月は8日(火)開催予定

問合せ・予約は
西貝(090-6176-1849)まで



9月5日(木) 14:00～

忘れ物

バスツアーでお扇子の忘れ物がありました。事務所にてお預かりしています。

輪番の班長は掃除当番ではありません

9月のゴミ出し日

ゴミステーションはルールを守って

可燃ゴミ	ビン	カン	金属類	古紙 段ボール	われもの 乾電池	ペットボトル
月・水・金・日	5 (木)					3 (火)
		12 (木)	12 (木)	10 (火)	12 (木)	
	19 (木)	19 (木)				17 (火)
	26 (木)	26 (木)		24 (火)		24 (火)